

飛鳥時代から平安時代の前期にかけて計画的に道路が整備されました。「あずま街道」とは、大宝律令により定められた「七道」の一つ・東山道のことで、鎌倉時代には奥大道と呼ばれていました。

あずま街道と呼ばれるようになったのは江戸時代になってからだと言われております。

この街道は、東国の整備と蝦夷に備える道として重要視されました。

古くは延暦15年(796年)に陸奥守坂上田村麻呂が蝦夷平定のため、文治5年(1189年)8月には源頼朝が奥州平泉藤原氏を討つためこの道を通り、慈覚大師・藤原實方中将・西行法師など沢山の武将や文化人などが通ったと伝えられています。

東山道の起点は、近江の国(滋賀県)瀬多(瀬田)で、終点は宮城県の多賀城まででしたが、のちにY字状に分かれます。一つは陸奥の国(岩手県)の胆沢から志波。もう一つは出羽の国(山形・秋田)の秋田城まで(推定)。距離にして1000キロメートルを越えます。旧名取郡内のルートは、時代の変遷とともに何度も変わりましたが、阿武隈川河畔の千貫(せんがん)―北目(きため)―笠島(かさじま)―塩手(しおで)―箕輪(みのわ)―熊野堂(くまのどう)を通過し、名取川を渡って富沢にでています。

また、この街道は文化の伝播を担った道でもあります。そのため、私たちが住んでいるここ名取にも沢山の文化遺産が今に伝えられています。それでは、南の方・岩沼から紹介しましょう。



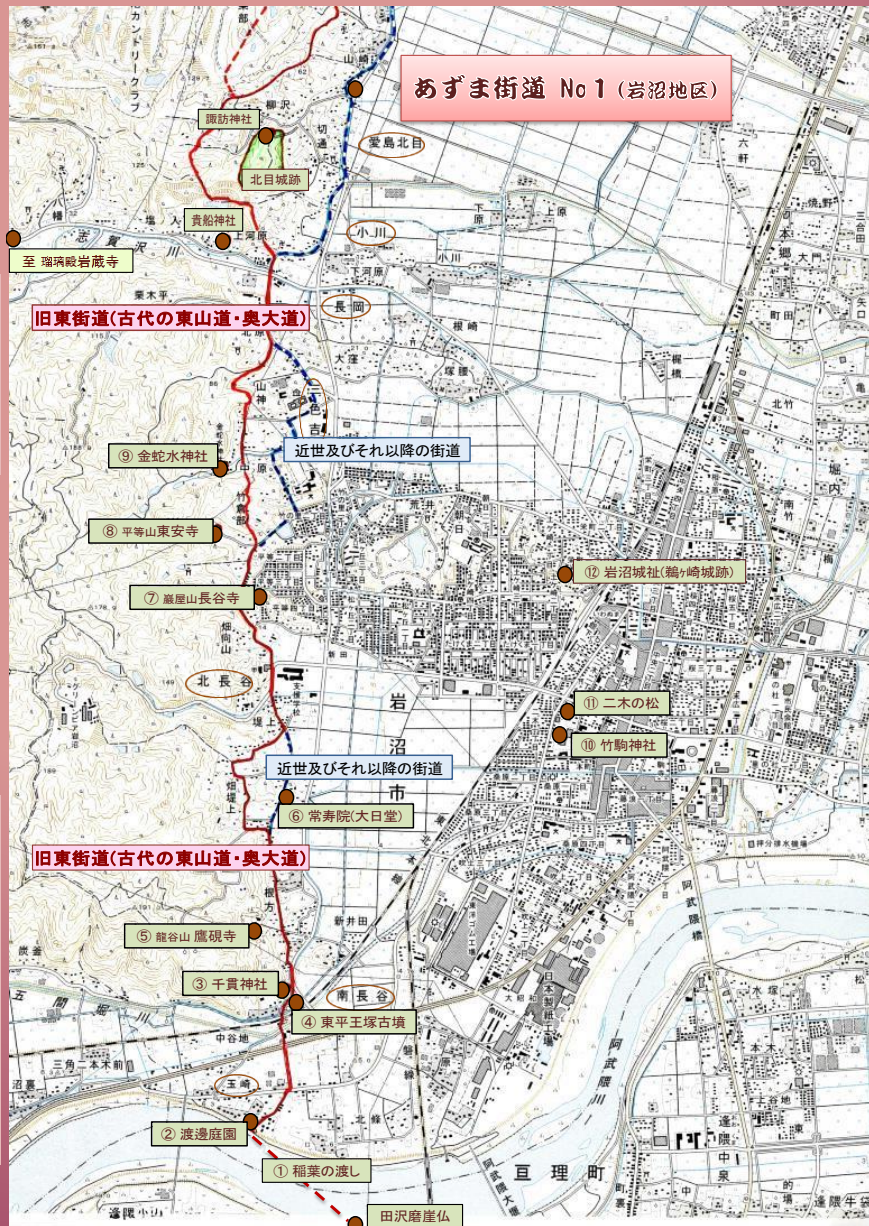
### 1. 稲葉の渡し

浜街道からあずま街道(東山道)へ合流するため亘理の安福河伯神社(あふくかはくじんじゃ)や田沢磨崖仏のある対岸に渡るのが「稲葉の渡し」である。



### 2. 渡邊庭園 岩沼市南長谷字西川前

玉崎の地は阿武隈川の渡河地点で、古代の「玉前駅」と推定され、江戸時代には、阿武隈川水運の玉崎河岸として重視された。藩政時代、渡邊家は代々仙台藩の水運関係の御用をつとめるかたわら、旅館としてもたいそう繁盛していた。庭園は文久2年(1862年)仙台藩お抱えの御庭師清水道観と星野益三郎が築庭した。およそ1000㎡の庭園は近江八景を模ったもの。



### 3.千貫神社 岩沼市南長谷諏訪128-2

前の道が東街道古道であるが県道38号として右隣に東北本線を跨ぐバイパスが通る。祭神は大山祇神で漁船守護の神として知られ、以前は航海の目標になっていたという「千貫松」が生い茂っていた千貫山の山頂にありました。千貫神社は古くから「船が山にかかった」という慶長大津波の伝承(伊達治家記録)が残ります。



### 4.東平王塚古墳 岩沼市南長谷諏訪128

草茫茫で古墳の姿が見えない。神社前の東街道沿いにあり共に歴史の古さを思わせる。この墓は朝鮮か唐の帰化人らしい。前方後円墳と言う(千貫神社宮司)。ここは千貫山の麓にあり本物の東街道沿いと千貫神社の正面にある。所謂ここから名取の橋までが名取の里で東街道の入り口にあたる。



### 5.龍谷山 鷹硯寺(ようけんじ) 岩沼市南長谷字柳150

鷹硯寺の創建は不詳。天文2年(1533)に白日耕史が中興したと伝わっている。寺宝に鷹硯があり、それが寺名に由来するもの。伝承によると永正年間(1504~21)に当時の陸奥鎮守府将軍だった百合若大臣の夫人が、京の都から飼っていた鷹に硯を託し夫に届けようとしたところ、鷹は力尽きてこの地で息絶えた。その硯が鷹硯とされ寺で預る事になり、息絶えた鷹は石となり現在は緑丸石と呼ばれている。(岩沼市HP)



### 6.常寿院(大日堂) 岩沼市北長谷畑堤上12-2

本尊は大日如来坐像で、元々は伊達政宗が梁川城主だった時、祈願所の1つだった来宝院の本尊だったので仏師である法橋雲龍が彫り込んだものとされる。(岩沼市HP)

春3月には常寿院大日堂の梅の花を見頃となります。白色や桃色の梅の花がきれいです。

### 7.長谷寺 岩沼市北長谷字畑向山2

創建は康平年間(1059~56)に前九年合戦の折、源頼義が戦勝祈願し、勝利をおさめた事で堂宇を建立したのが始まり。本尊である十一面観音像は小野篁(802~853)作と云われ、両脇には不動明王像と毘沙門天像が安置されている。境内周辺は長谷寺横穴古墳群と呼ばれる古墳群がある。(岩沼市HP)



## 8. 平等山東安寺 岩沼市三色吉字竹倉部87

創建は不詳。奈良時代後期、当時の陸奥守だった藤原恵美朝かりの家臣であった藤原忠安が主人の死後、冥福を祈り位牌を安置して東安坊を称し庵を建てたのが始まりとされる。



## 9. 金蛇水神社 岩沼市三色吉字水神7

縁起; 平安時代中頃一条天皇の御代、京都三条の小鍛冶宗近は、天皇の御佩刀を鍛えよとの勅命を賜り名水を求めて諸国を遍歴してこの地に至り、水神宮のほとりを流れる水の清らかさに心をうたれた。早速、水神宮に祈願をし、炉を構えて刀を鍛え始めたが、カエルの鳴き声で精神統一ができず、よい刀が打てずにいた。そこで宗近は、雌雄一対となった金蛇をつくり田に放ったところ、それまでうるさかったカエルどもは、ピットリとなりをひそめ、無事素晴らしい宝刀を鍛え上げることができた。神の御加護に感謝し、雌雄一対の金蛇を斎鍛して水神宮に奉納し社名も金蛇水神社と称するようになったと言う。



## 10. 竹駒稲荷神社 岩沼市稲荷町1-1

沿革; 承和9年(842)、小倉百人一首で有名な参議小野篁(おののたかむら)卿が陸奥守として着任した際に、奥州鎮護を祈願して創建された。文化4年(1807年)には正一位の神階を受けた。創建1150年を超える竹駒神社は、京都の伏見稲荷、茨城の笠間稲荷と並ぶ日本三稲荷の一つとして知られ、衣・食・住の守護神である倉稲魂神(うかのみたまのかみ)・保食神(うけもちのかみ)・稚産霊神(わくのむすびのかみ)の三柱の神々が祀られている。古くは平泉藤原三代、藩政期には伊達家歴代の手厚い庇護を受けた。

境内では、市の文化財に指定されている向唐門や、江戸の秀作とうたわれる二層の随神門を仰ぐことができる。



## 11. 二木の松(武隈の松) 国・市指定文化財

岩沼市二木2丁目

この松は、陸奥の歌枕の中でもその詠歌の多いことでは屈指の名木である。

千余年前、陸奥の国司として着任した藤原元良(善)が植え、以後能因・西行をはじめ多くの歌人に詠まれるようになった。

松尾芭蕉は、「おくのほそ道」に記して「桜より松は二木を三月越シ」の句を詠んでいる。

今回はここまで  
次回は名取南部編です。



## 12. 岩沼城址(鶺鴒ヶ崎城跡)

岩沼市館下一丁目

鶺鴒ヶ崎城は、古くは「武隈館」と呼ばれ、平安時代中期の歌人・源重之が欧州に來た際に築城したのが始まりであると伝えられる。

戦国期には「城」として機能していた。

